マンスリトピックス

1. 土木技術に細かい“こころ”を
2. 繰り延べ予算と大規模土木事情
3. 職人はおだてて使え，といわれても

1. 近年，宅地開発，ゴルフ場建設，その他土木一般工事のために山地開発が急テンポで進んでいる。これらの工事は，いずれも，環境破壊，災害発生，雨水流出特性の変化などの元凶として世間からの風当りが強い。いま，宅地造成とゴルフ場建設を例にとって，上記項目の対比を端的に行ってみると，まず環境破壊については大気汚染，振動，騒音，水質汚濁，景観悪化などに関する限りでは宅地造成の方が一般的に関与率が高いといえよう。次に，災害発生として土地崩壊の面を取り上げれば，崩壊率（崩壊発生箇所数比率）は有林地：無林地＝1：2 とされ，また，用材林：シン炭林：竹林：伐採跡地：草地＝1：1.4：0.6：2.4：2.4（飯塚肇：森林防災学）とされるとすれば，両者ともなんらかの防災工事を施さなければ土地崩壊の危険性はかなり高くなると予想される。雨水流出特性の変化に関しては，山地開発に伴う保水能力の大幅な減衰はまず避けられまいが，流出全量からみれば，表面流出率が大きくなるとそれも多くなるはずであるので，治水とか下流の河川水量維持のための貯水池のようなものを必要とすることになろう。ゴルフコースでは池を配することが多いので，この問題には対処しやすいかもしれない。ここにあげたのは一例にしかすぎないが，いずれにしても，土木工事そのものの良否と技術者の細かい“こころ”がうまくかみ合わねばならぬことであって，この点に留意して「公害元凶」のイメージを土木分野から取り除きたいと考えるものである。 [C]

2. 昭和 49 年度予算は約 10 日間の暫定期間を終え本予算に移行したが，昨秋の石油危機以来，物価抑制と資源節約という課題の中で抑制されてきた公共事業については，第 1.4 半期の契約予定額もきわめてわずかに押さえられた。このため，各所で工期からの年度予算の消化を危ぶむ声，中小建設業の倒産を危ぶむ声が出てきている。

日本の経済は自転車操業といわれ，公共事業はそのペダル踏みの主役である。少々踏む力を弱めてもよいが，全く止めることは避けねばならない。このため，数千キロの自動車高速道路や新幹線，大規模な港湾と大型ジェット機用の空港など，ペダルを踏み続けるため大規模な貯えがなされている。

しかし，“これらがこの人口の極度に多く，国土面積も狭小，しかも国際的資源不足の影響を最も受け易い日本で本当に必要だろうか。便利性・合理性を追い求めた後に受けたシッペ返しは，相当に痛いものであったが，今後に受けるそれは，もっともっと手厳いものになる。そのような大規模土木事業は直ちに中止すべきだ。日本は昭和 20 年 8 月 15 日に一度破産した。遠い将来の日本のためには，ここでもう一度破産することもよいのではないか，そして，じっくりと考え直そう”という声が昨秋以来またまた聞こえてくることが多くなった。この議論の当否はさておいて，土木技術者であるわれわれも，この際，当面のこと，これからのことを考えてみる必要があると思う。 [S]

3. 社会生活は多くの機能が複雑に入り組み構成される。その中で，数学，物理，化学などの基礎的科学を工業的に応用するための科学技術を工学が担っている。いわば，日常生活の道具の生産技術を生業とする部門といえよう。技術者は人間本来の探究心と創造欲をもって，より合理的な，より美しい，より雄大な道具をつくりだすことに脇目もふらずに没頭する。技術者に与えられる栄誉には商売を抜きにした社会に対する貢献を期待する意味が多分に含まれており，技術者はこれを誉とし甘受する性格を多分に持つ。意地悪くいえば，職人はおだてて使えという意味に通じ，オモチャさえ与えておけば文句をいわない使い易い道具に技術者自身がなっている。技術文明に対する批判は，自分自身の判断をせずに道具つくりに熱中する技術者の態度に向けられている。しかし，これは批判する側にも責任がある。芸能部門も社会的機能の一つであるから選挙によって公に発言を許される人が出るのは当然であるが，それにひき替え技術者自身の主張を聞いてもらえる場はいかにも少ない。技術者はあきらめ，自己満足を求めて道具づくりに熱中する。 [J]